

東区、よかまち・よかところ 歩・歩・歩

東区歴史街道を往く



香椎宮参道 黒瀬辰雄氏 作



宮崎宮一の鳥居



志賀島 坂本恒義氏 作



旧名島水上飛行場



和白干潟

歴史

歩・歩・歩
さんぼ

「ボランティアのおすすめスポット」 冊子発刊によせて

発行にあたって

東区は、志賀島や香椎宮、菅崎宮、名島城跡をはじめとする多くの歴史的な魅力ある資源にあふれ、区ではそれらの魅力を活かしたまちづくりを進めています。その取り組みの一環として、平成21年5月から市政だより東区版で「歴史さんぼ・ボランティアのおすすめスポット」として連載を始めました。掲載にあたり、東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称・さんぼ会）の皆様に、原稿の執筆や写真の提供をいただいております。

読者の皆様に毎号好評を得たことから、連載開始二周年を迎えるのを機会に冊子としてまとめることとなり、さんぼ会の皆様に編集協力をいただき、歴史スポットをわかりやすく案内できる「東区歴史街道を往く」が完成しました。身近な歴史や文化に関する情報を取りまとめたガイドブックとして、ご家族そろってご活用いただければ幸いです。

最後に、本書の編纂にあたり、ご尽力いただきました古賀会長をはじめ、さんぼ会の皆様に厚くお礼申し上げます。

東区長 松田 純

あいさつ

『歴史さんぼ・ボランティアのおすすめスポット』のコーナーがスタートして早いもので二年の歳月が経ちました。普段、何気なく見、通り過ぎていく祠や寺社、石造物に意外な歴史や伝承物語が有り、自分の住んで居る地区が昔は全く違った環境であったりします。隠れた史跡にスポットを当てようというのが当コーナー開設の発端でした。回を重ねるごとに多くの区民の皆様から、「私の住んで居る地区は素適な所と知りました」とか「いつも前を通っています」が、そんな話が有ったとは知りませんでした」と言うようなお話を多々戴くようになり、筆を執る会員諸氏の大きな励みとなっております。

今回これまで『市政だより』紙面に掲載されたものを冊子にまとめ発刊の運びとなりましたことは、誠に喜びにたえません。この小冊子が皆様方の郷土史研究の一助に、散策のお供にご利用頂きますれば幸甚です。

最後に私ども『愛称歩・歩・歩（さんぼ）会』に今後とも力強いご支援を賜りますようお願いを申し上げます、私の挨拶といたします。

さんぼ会 会長 古賀偉郎

歴史さんぽボランティアのおすすめスポット

目次



エリア	掲載月	タイトル	ページ
名島	2009.06	名島水上飛行場	01
箱崎	2009.07	鯨塚	02
多々良	2009.08	多々良浜合戦	03
馬出	2009.09	釜掛の松	04
香椎	2009.10	漱石、新妻との旅で綾杉を詠む	05
和白	2009.11	塩浜の新開築堤記念碑	06
志賀島	2009.12	志賀海神社の山ほめ祭	07
立花山	2010.02	歴史を秘めた立花山	08
西戸崎	2010.03	「西戸崎」鉄道が開いた町	09
志賀島	2010.05	志賀島の浦島太郎伝説	10
箱崎	2010.06	注油駆除法の発明者 王丸彦四郎	11
香椎	2010.07	香椎宮で大正天皇が「松茸狩り」	12
名島	2010.08	名島の帆柱石	13
三苦	2010.10	託乗寺と神功皇后伝説「轡水」	14
志賀島	2010.11	志賀島は天皇家の荘園だった	15
箱崎	2010.12	将軍地蔵	16
香椎	2011.02	香椎宮にある筋堀	17
名島	2011.03	秀吉ゆかりの名島城	18

『さんぽ会』のホームページは <http://h-yanase.sakura.ne.jp/sanpokai.html> をご覧ください。

『歩・歩・歩（さんぽ）会』の愛称について

「新しい人たちと歩み、地域の人たちと共に歩み、ボランティアとしてのヨチヨチ歩きを始める私たち、この三つの歩みを積み重ねていきたい」との思いから、また、地域の歴史を楽しく散歩する意味から、三歩と散歩で「さんぽ会」としたものです。

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

名島水上飛行場（名島）

「大西洋単独無着陸飛行」を成し遂げ、一躍、時の人となったアメリカ人の飛行家リンドバーグ。単独飛行成功から4年



名島に飛来したリンドバーグ夫妻機
（昭和6年）「故郷名島の歴史」より

後の昭和六年、彼と夫人が世界一周飛行の途中、名島にあった水上飛行場に舞い降りました。開港して二年目で初めて外国からの飛行機を迎えた福岡の人々は、ひと目、空の英雄を見ようと黒山の人だかりになったようです。

昭和9年、時代は陸上飛行場を求めており、定期便の運行を停止。その後、雁ノ巣の福岡第一飛行場の開場により役割を引き継ぎ、閉鎖されました。水上飛行機が滑走した海や飛行場一帯は、現在、埋め立てられ、その一角に昔をしのぶ記念碑が建



（所在地）東区名島1

ち、付近の道路は「リンドバーグ通り」の愛称で呼ばれています。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

柳瀬英昭

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

鯨塚（箱崎）

明治21年博多湾に迷い込み、捕獲された鯨の霊を弔うため、箱崎網屋の漁師たちが建てたものです。九州大学構内にありま



鯨の標と書かれた珍しい碑（写真左）

したが、現在、網屋天満宮境内に祭られています。

当時の新聞「福陵新報」によると、網屋町の漁師総出で、荒海の中、沖合の鯨を2、3日かけて海浜に追い詰め捕獲。鯨は、全長13メートル、肉約9トン、油や内臓を含めると売値は1800円になったと4回にわたって報道されています。

「今のお金に換算すると1900万円程度であると思われる。当時の漁師200戸で配分すると一戸当たり9万5000円になり、今回

の定額給付金より高額の配当でした」と案内人の橋本さんは推計しています。

思わぬお金を懐にした漁師たちは、芝居小屋を興業したり、祝いの宴を開いたりと箱崎地区は賑わったそうです。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

橋本幸雄



（所在地）東区箱崎2 網屋天神内

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

多々良浜合戦（多々良）

多々良の地名は全国各地に点在し、古来の製鉄法である古代たたら製鉄に由来するものとい

われています。

多々良川水系の広大な流域には、遺跡が多数あり貴重な出土品が発掘されています。この地は古代の官道や、唐津街道など、人々の往来や物流が盛んなどころでした。

多々良の地が、日本の歴史を変える分岐点となったことがあります。延元元年（1336年）九州に落ちのびてきた足利尊氏がわずかの手勢で肥後の菊池氏の大軍と多々良川を挟んで激突。後世に有名な多々良浜合戦です。奇跡的に勝利した尊氏は、



(所在地) 東区多々良浜

これを契機に京都に攻め上り室町幕府を開くこととなります。多の津にある福岡流通センターの一角に多々良浜合戦の犠牲者をまつる「兜塚^{かぶとずか}」と由来を記した石碑を見ることができます。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

大和祐二^{ゆうじ}



大和さんお勧めの「多々良ふれ愛ロード」

歴史

歩・歩・歩
さんぼ

釜掛（かまかけ）の松（馬出）

天正15年（1587年）豊臣秀吉が島津氏征伐の帰途、博多に凱旋したとき、まちは度重なる戦乱で荒野の状態となってい



九州病院敷地内にある「釜掛の松」の碑

ました。そこで秀吉は筥崎宮にとどまり博多の復興に努めました。

このとき、秀吉は茶人の千利休に箱崎松原で茶会を開かせました。利休は松の枝に雲龍の釜をつり、松葉をたく「ふすべ茶」を工夫して会を催したところ、煙となって立ち上がる芳香が茶会に風情を添えて、秀吉は大変喜んだそうです。

箱崎松原の「釜掛の松」の茶会が、屋外で楽しむ茶会である野点の始まりと言われています。
※「ふすべ」とは、九州地方の方言でたき火のことを指し、「ふ



(所在地) 東区馬出3 九大医学部内

すべ茶」とは松葉など燃やして沸かした湯を使ったお茶のこと。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぼ）会』

橋本幸雄

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

漱石、新妻との旅で綾杉を詠む（香椎）

境内に神功皇后が植えたといえられている綾杉あやすぎと呼ばれる杉があります。木の葉が重なり合って綾になっていることから



本殿前の綾杉と樹下の歌碑

名付けられたもので、新古今和歌集に「ちはやふる香椎の宮のあや杉は神のみそきにたてるなりけり」と詠まれています。

もうひとつ有名な句があります。「秋立つや千早ふる世の杉ありて」と夏目漱石が詠んだもので、記録によると漱石は三度福岡を訪れています。よほど気に入ったのか明治29年には、新妻の鏡子を伴い一週間ほど滞在し香椎宮や宮崎宮を訪れ、春吉の旅館に宿泊。「行く秋や博多の帯の解け易き」と詠んでいます。坊ちゃんなど数多くの小説

を世に出した夏目漱石が当時としてはまだ珍しい新婚旅行の地に選んだのが福岡・博多だったのです。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

瀬尾 六雄 むつお
安部 光征 みつゆき



(所在地) 東区香椎4

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

塩浜の新開築堤記念碑（和臼）

東区塩浜は江戸時代には、糟屋郡奈多浜と呼ばれ博多湾の奥どまりで、海水の塩分が濃く、浜地で陽あたりが良く、塩田に適してい

ることから元禄16年（1703年）4代藩主、黒田綱政の時代に30町歩（30約ヘクタール）の広大な塩田が開かれました。

30町歩の土地は塩田だけでなく、畑地としても活用され水溜りは養魚場になり、大いに生産が上がり、藩の財政に貢献しました。現在は広大な畑地となっている一角に新開築堤記念碑が建っています。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

酒井孝司



昭和34年旧和白町により建立された記念碑

しかし、豪雨や台風、津波が次々と塩田を押し流してしまうので、堅固な堤防が必要となり、福岡藩は「塩は日用の民食にして一日も欠くべからずこと、米穀に次げ・・・」と防波堤の造成を計画。工事を指揮したのは、松本平内へいないという藩士で、博多の豪商が資金を援助する銀主となり、安政5年（1858年）に6年の歳月をかけ完成させました。



(所在地) 東区塩浜3

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀海神社の山ほめ祭（志賀島）

同神社は、志賀島の南側に位置する全国の綿津見神社の総本山で、同祭りは五穀豊穡と豊漁を祈念する祭りです。



11月15日に行われた秋の山誉め漁獵祭

同祭は春秋（4月と11月）2回

行われる祭りで、昔は「かりすなどりの御祭」と呼ばれていました。現在は春を「山誉種蒔漁獵祭」、秋を「山誉漁獵祭」といい、この祭りを通称「山ほめ祭」と呼びます。

山ほめ神事の起源は明らかではありませんが、神功皇后神話にも記述が見られ、その所作に特徴があります。古老たちが本殿後ろの勝山、北側の衣笠山、西側の三笠山の志賀三山をはらい清め「あら良い山 繁った山」と褒めたたえます。

これは山が育つと田畑を潤し、

巡って海の幸もはぐくみ、大漁・豊作をもたらすことを暗示しています。多くの山林が失われ環境問題を抱える現代に対し、千数百年の昔から先人たちは自然の大切さを、祭りを通して教えていたのです。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

古賀 偉郎 よしお



（所在地）東区志賀島

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

歴史を秘めた立花山（立花山）

立花山は東区と新宮町、久山町にまたがる標高367メートルの山で、「二神山」「井楼山」とも呼ばれています。古くは霊



西（玄界灘）方面から見ると二つの峰が見えます

山として信仰の対象であり、玄界灘を航海する船から見える二つの峰が重要な目印でした。また井楼とは敵を見張るやぐらの意味で、同山の歴史を表していると言えます。

対宋貿易以来、貿易港として栄えた博多の富を狙った攻防戦が度々あり、筑前の重要拠点として豊後大友氏の一族・大友貞載が九州一の山城である立花城を築きました。豊臣秀吉の九州統一後、天正16年（1588年）小早川隆景が筑前に入国すると、石垣を高く積むなど城郭

を大改造して勢力を誇示しました。関ヶ原の戦いの後に、黒田長政が筑前に入るとともに廃城となりましたが、今でも石垣や古井戸跡、各峰には防御陣地や兵の駐屯施設だったと思われる曲輪跡を見ることができます。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』
門 靖夫



（所在地）東区・新宮町・久山町

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

「西戸崎」鉄道が開いた町（西戸崎）

「しやれたマンションが建ち、閑静な町並みが続く西戸崎地区。400年前は一面砂地で不毛の地であったとは思えない光景です」



塩浜付近を走る博多湾鉄道（写真奥）
（旧和白町合併20周年記念誌より）

と江口さん。江戸時代初期に砂土に土を入れて松の植林に成功し、長い年月をかけ白砂青松の地に変ぼうしました。

明治初期は、わずか14戸であった人家も現在、約2600世帯、6000人の人々が暮らしています。この町が大きく発展する転機は一本の鉄道です。石炭積出港として博多湾の中で比較的に水深の深い西戸崎に白羽の矢が立ち、明治37年に西戸崎から須恵の間に博多湾鉄道（現在のJR香椎線）が敷設され、最盛期には粕屋炭田から産出される年間43万4千トンの

石炭が積み出されました。

明治42年の製油所開設や昭和12年の西戸崎炭坑開坑、戦後の米軍キャンプと時代の大波を乗り越えて今、国営の海の中道海浜公園を核に、リゾートホテルやゴルフ場を擁する一大レクリエーション地域として新時代を歩んでいます。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

江口明彦



（所在地）東区西戸崎

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀島の浦島太郎伝説（志賀島）

子どもどころに浦島太郎の話を聞いた人は多いと思います。この話は全国津々浦々で語り継がれ、話の中身がそれぞれ違うのも面白

いところでは、志賀島に伝わる浦島太郎伝説を紹介しましょう。

志賀島の北側、勝馬は浦島（裏島）と呼ぶ。この村に太郎という青年がいて、郷長の一人娘、姫子と夫婦になる仲であったが、漁に出た太郎が荒天にあい、人事不省となって帰る。以来「助けた亀に連れられて竜宮城へ行った」とうわ言を言う。郷長は一策を案じた。海岸の島々を鮮やかに彩り屋敷を竜宮城のように飾りつけ、姫子を乙姫様のように着飾らせた。村の娘達も侍女に仕立てた。太郎は大



竜宮城のように飾り付けられたと伝説が残る二見岩



（所在地）東区志賀島

ショック。正気に返った。やがて二人は村民に祝福されてめでたく結ばれた、と言う。
皆さんが聞いた話とは少し違うでしょう。この話は、幸せは遠い所ではなく、身近にあるという事を教えているのではないのでしょうか。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

古賀 偉郎 よしお

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

注油駆除法の発明者 王丸彦四郎（箱崎）

江戸時代中期、宇美川沿いに堤防を築いて農業発展に偉大な足跡を残した王丸彦四郎の功績をたたえる碑が松島大橋（松島二丁目付近）の傍らに立っています。



農業発展の功績をたたえる碑

旧多田羅村の篤農家であった彦四郎は水害や塩害から農地を守り新田を開拓するため、堤防の必要性を藩に説き、約7万人を動員して、わずか5日間で長さ4キロに及ぶ石積み
の堤防を築き上げました。

もうひとつ彦四郎には、稲を害虫から守る「注油駆除法」の発明者としての功績があります。

ある日、彦四郎は仏壇の灯明台を自宅前の水田で洗ったところ灯油（菜種油）が流れ出し、翌日、水田で多数のイナゴの死骸を発見しました。念のために鯨の油を水田に張るとイナゴの気門をふさいで窒息させる効果がありました。それから、黒田藩

では注油法が推奨されました。

稲の害虫ウンカ類大発生により西日本一帯を襲った享保の大飢饉ききん

（1732年）にも多田羅村周辺は被害を免れ、この年は豊作でした。

後年、全国的に行われたこの駆除方法は筑前国が発祥の地といわれています。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

橋本幸雄



（所在地）東区松島2

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮で大正天皇が「松茸狩り」(香椎)

香椎宮の本宮神殿裏手に、玉垣を巡らしてある杉がそびえ立っています。脇には「皇太子殿下御手植杉 明治33年10月28



香椎宮本殿と大正天皇が植樹した杉(右側)

日」の石碑があります。この年、明治33年の10月から2カ月にわたって、嘉仁親王皇太子(のちの大正天皇)が北九州一円を訪

問されました。この時の旅行は「西順日記」に、嘉仁親王皇太子が、10月28日の福岡香椎宮境内での「松茸狩り」の際に、あまりに松茸が採れるので「殊更に植えにしはあらずや」とヤラセを見抜き関係者を慌てさせたと記されています。

「香椎の松茸」については、戦前まで香椎の山々は松茸の産地として有名だったそうです。

秋になると博多の街からの松茸狩りの客でにぎわっていました。

松茸は赤松から生えるので、現在の福岡女子大学付近や、長谷の山からも多く採れたと元香椎公民館長の本郷辰雄氏の回想録にも記されています。

【案内人】

『歩・歩・歩(さんぽ)会』

安部 光征 みつゆき



(所在地) 東区香椎4

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

名島の帆柱石（名島）

名島の海岸で、市で唯一の国指定の天然記念物（地質鉱物）である帆柱石を見ることが出来ます。伝説では、神功皇后が三韓（朝鮮

半島の古代三国）から帰還したときに乗っていた船の帆柱が化石になったものとされ、帆柱石の名称の起源となっています。

実際は、約3500万年ほど前のカシ属の樹木が化石になったものです。長さ10メートル、直径60センチの円柱形の細長い石が9個に折れた状態で、打ち寄せる波の中に古代の面影を見せてくれます。

帆柱石のある名島校区では、歴史の遺産を生かした地域づくりを進めており、周辺の環境美化・保全を目的とした環境愛護会が結成されています。毎月第一土曜日に

地域の大人や子ども、松崎中学校の生徒も協力して、周辺の清掃活動を行っています。

地域の人の協力で守られ、歴史を物語る帆柱石を見に来ませんか。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

吉村一紘



中央に横たわる丸太のような石が帆柱石



(所在地) 東区名島1

歴史

歩・歩・歩
さんぼ

託乗寺と神功皇后伝説「轡水」(三苦)

西鉄貝塚線の和臼(三苦)駅間の線路脇に轡納山託乗寺があります。

文禄3年(1594年)朝鮮出兵の折、浄土真宗の高僧教如上人は、

秀吉の陣中見舞いに九州へ来た帰りに、青柳村(現在の古賀市)の良泉寺に宿泊しました。同寺の住職唯念は、京都への随行を懇願して許され、教如の許で修行に励みました。

唯念はその後、青柳村に帰郷し到関山託乗寺を開山。正保3年(1646年)に弟子の琳珈が分家し、現在の三苦地区に轡納山託乗寺を建立しました。

この寺にある古井戸には、神功皇后にまつわる次のような伝説があります。三韓出征(日本書紀に記載)の帰途、皇后の一行は飲み水を求めて古賀の花鶴浜へ上陸しますが水がありません。すると皇后の馬が轡を

噛み切り駆け出し、三苦まで来ると前足でさかんに大地を蹴りました。一行がその場所を掘ると清水が湧き出したので、井戸を「轡水」、この一帯の地名を「轡崎」、その馬の轡を埋めた丘を「轡納山」と呼ぶようになりました。

【案内人】

『歩・歩・歩(さんぼ)会』

門 靖夫



轡納山託乗寺にある「轡水」と呼ばれる井戸



(所在地) 東区三苦4

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

志賀島は天皇家の荘園だった（志賀島）

平安末期から約300年間、志賀島は京（現在の京都府）の島田家が管理する天皇家の荘園（長講堂領）の一部でした。こ

の間、志賀島から島田家へ送られた書状より、当時の荘園の様子を知ることができます。

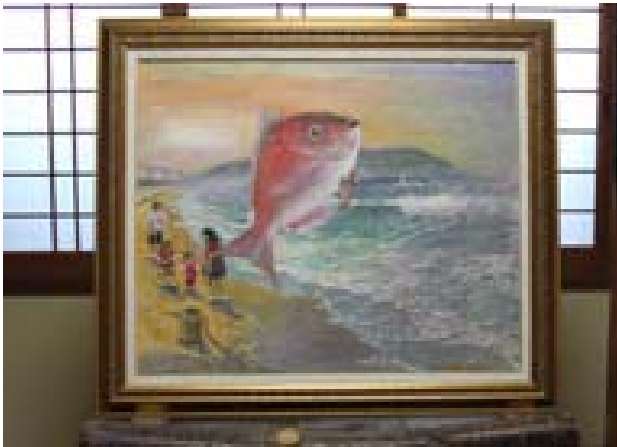
年貢米を船や人を使って京へ送るのに年貢の4割も運賃としてかかっていたようで、現地代官はこれを3割の運賃で済むように努力したと記された書状があります。また直径二尺（約66センチ）もある茶碗鉢を京に送るようにとの指示に「せいぜい一尺程度のも物ならある。しかし、高値であるが良いか」と尋ねる書状も。京で入手しにくいような大鉢を志賀島に注文するのは、

ここが対外貿易の拠点だったからだと思われれます。そのほか「アジの塩辛は参上の折に持参したい。志賀島の海人たちの毎年恒例の進物も送ったので受け取りを頼む」など記された書状もあり、いかにも海辺の荘園の生活を感じさせます。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

古賀 偉郎 よしお



志賀島と海の幸を描いた
小林さん（島内在住）の作品



（所在地）東区志賀島

歴史

歩・歩・歩
さんぼ

将軍地蔵（箱崎）



お堂に鎮座する将軍地蔵

箱崎六丁目のJR鹿兒島本線脇に立つお堂に将軍地蔵（石造地蔵菩薩座像）があります。この地蔵は高さ162・5センチ、像高

80・8センチで県の指定文化財になっています。

言い伝えでは、「平清盛の長男、重盛が平家の将来を憂いて、一門の後生を吊ってもらうために、宋との貿易に携わっていた九州の船頭（和船の長）に命じて宋にある育王山（中国浙江省にある禅宗の寺）に砂金3千両を寄進しました。そのお礼に育王山から地蔵が贈られてきましたが、船頭が帰国したときにはすでに重盛は、世を去り、平家一門も没落していました」と言われています。重盛が、砂金を寄進した話は平家物語の巻三

「金渡」に書かれています。

現在、お堂には大日如来、薬師瑠璃光如来の諸仏も祭られ、地元住民の崇敬もあつく、毎年8月には将軍地蔵施餓鬼供養が行われます。博多にわか、舞踊の奉納もあり、近郊から多くの参拝者でにぎわっています。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぼ）会』

橋本幸雄



（所在地）東区箱崎1

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮にある筋塀（香椎）

香椎宮は神功皇后が、この地で没した仲哀天皇の霊を祭ったのが起源とされ、その後、聖武天皇の時代に同皇后の社殿が造営

（724年竣工）されたので、古くは両宮を併せて香椎廟と呼ばれていました。明治時代には官幣大社香椎宮、戦後から香椎宮と称しています。

数は格式により異なり、五本を最上としています。筋塀を付けられるのは天皇の勅許、つまり許可が必要でした。香椎宮が天皇家とつながりのある「廟（特定の人物を祭る建物）」としての証で、楼門の扉には菊の紋章が使用されています。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

瀬尾六雄むつお



楼門の左右に、ある塀が「筋塀」
帯状の5本の線が入った香椎宮の筋塀

境内に入り菖蒲池を隔てた先に立つ重層の楼門は、総檜の白木造りで明治36年（1903年）に再建されたものです。この楼門には左右から伸びる筋塀があります。筋塀は土壁に白い帯状の線が横に五本入った築地（瓦で屋根をふいた塀）で、もとは御所または門跡（皇族などが出家して居住した寺院）で用いられました。筋の



(所在地) 東区香椎4

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

秀吉ゆかりの名島城（名島）

名島城は、豊臣秀吉の九州平定後、筑前国主となった小早川隆景が秀吉の命により、九州監察と筑前を支配する政治の中心地として、天正16年

（1588年）に築城しました。

この城は、秀吉が自らが場所を選び城の配置を決め、城の要所を設計したと言われ、小規模ながら桃山文化の粋を極めた絢爛豪華な水城であつたと言われています。文禄の役（朝鮮出兵）の折、秀吉は肥前名護屋へ西下の途中、淀君らと立ち寄り宿泊しています。

小早川は13年間この城を治め、慶長5年（1600年）黒田長政に代わると、長政は、現在の福岡城の地に城を築きました。このとき名島城を解体し、その石材、木材を新城の築城に使用しました。移築したもの

は「名島引け」と呼ばれています。

名島城跡に立つと、約400年前、日本平定を終え、天守閣から玄界灘を望み、朝鮮半島から大陸へと思いを馳せた戦国武将の夢と野望を、思い巡らすことができます。

【案内人】

『歩・歩・歩（さんぽ）会』

江口明彦



（所在地）東区名島1



箱崎探訪



志賀島探訪



和白探訪



名島探訪



香椎探訪

発行：福岡市東区役所
編集：東区歴史ガイドボランティア連絡会